

川と人

Vol 29
2006

特集
石狩川の幸
郷土の味を守り伝える



各地に伝承残る、なじみ深いカニ

【モクスガニ】エビ目カニ下目 イワガニ科

ハサミに密集する毛が特徴で藻クズがついているように見える通称カワガニ。モクゾウガニ、ズガニ、ツガニ、ガンチなど地方により愛称も異なり、日本全国に生息するなじみ深い生き物。各地に残る伝承や地名がそれを物語ります。「サルカニ合戦」別伝では、カニがサルの尻の毛をハサミでむしったため、ハサミに毛が生えるようになったといわれます。さて、モクスガニは上海ガニ（チュウゴクモクスガニ）の同属異種で、川や水路、湖などで成長し、大人になると川を降って河口に、河口から海域に広範囲で繁殖活動を行います。交尾は河口から海域で行われ、メスは3回ほど産卵。繁殖を終えると海の藻クズに。この点は、サケやカワヤツメに似ています。塩茹など郷土料理として食されていたモクスガニは、石狩川と支流のどこにでもいましたが、今、特徴的なハサミを見ることは少なくなりました。

監修 北海道開発局
発行 (財)石狩川振興財団 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5番地 Tel (011) 242-2242
平成18年10月 定価1,300円(消費税・送料込み)

ホームページアドレス <http://www.ishikari.or.jp/>

特集

石狩川の幸 郷土の味を守り伝える

日本第3位の長さ、第2位の面積を誇る石狩川。

これだけ広く、長いことから、石狩川にはじつに多くの生き物が棲んでいます。

とくに純淡水（真水）から汽水（淡水と塩水の中間）におよぶ水中には、多様な魚が生態系を成し、

サケ・マスをはじめ、カワヤツメ、モクスガニやスジエビ・・・その昔はチョウザメも悠々と泳いでいたという。

石狩鍋にドジョウ汁、ヤツメの柳川などなど、豊かな川の幸は、人と地域を支え続け、

いまでも確かに郷土の味として継がれています。

そんな石狩川の幸を辿ってみることにしました。

（参考資料）
石狩川水系ヤツメ関連資料 北海道
北村史 岩見沢市北村
生振開村百二十年 生振開村百二十年記念事業協賛会



CONTENTS

特集 石狩川の幸 郷土の味を守り伝える

- ヤツメウナギ【江別市】..... 3
- ドジョウ【北村（岩見沢市）】..... 4
- ワカサギ他【石狩市】..... 5
- 北海道工業大学 環境デザイン学科 教授 柳井清治さん 6

世界河紀行..... 7・8
**したたかで陽気な途上国
インドネシア共和国**
 独立行政法人国際協力機構（JICA）
 インドネシア共和国公共事業省水資源総局派遣
 水資源政策上級アドバイザー
平井 康幸氏

- 石狩川の歴史 9・10
 ■舟運と開拓の原点 樺戸集治監と監獄汽船

- 流域の現在 11
 ■【妹背牛町】ハーブの香る、まちづくり

- ニュース&ニュース 12
 ■夕張川洪水・危機管理演習
 ■第57回 北海道植樹祭 in 滝川

- 北海道開発局
 石狩川水系 豊平川河川整備計画の策定 13・14

- 北海道開発局 石狩川開発建設部
 ダムスタンプラリーと水のふるさと通信 15・16

- 北海道開発局 旭川開発建設部
 石狩川・川のミュージアムネットワーク・スタンプラリーと
 土別河川防災ステーション・川の遊学館めぐみ完成 17・18

- 北海道
 地震・高潮対策事業の完成 19

- 札幌市
 西野川環境整備事業 20

- 旭川市
 サイクリングロードを行く～自転車てたどる石狩川～ 21

- 石狩川振興財団 活動報告 22
 ■2006 子ども記者団
 ■川の記憶・まちの記憶探訪～石狩川エコミュージアム形成に
 向けて～江別探訪（乗船編・まち歩き編）
 ■編集後記



いわみざわ北村温泉
岩見沢市北村赤川156-7 TEL.0126-56-2221

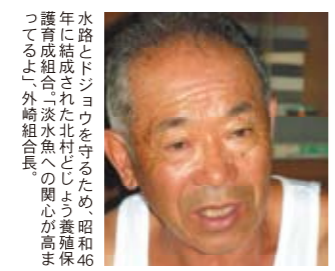
北村
この味

ドジョウの柳川鍋。味は淡泊、栄養価はウナギに劣らない。

きたむら田舎フェスティバル
●ドジョウ汁の提供/8月中旬 岩見沢市北村中央公園

昭和50年代、約10トン誇ったドジョウ漁獲量は、農業や用水路のコンクリート化等の影響で、わずか1トン程にまで激減。現在、北海道立水産孵化場はドジョウの生態や生息環境(水田)の実態を調査しています。今後は保全と回復のため、行政・研究者・漁業者による枠組みをつくっていくそうです。地域では、「北村の川を知る河川調査実行委員会」が旧美唄川の調査を毎年実施し、生き物が棲む河川環境を感じる場を提供しています。

この味を伝えるために



水路とドジョウを守るため、昭和46年に結成された北村とじょう養殖保護育成組合「淡水魚への関心が高まっているよ」、外崎組合長。

水郷のまちの育み

ドジョウ

北村

名品・北村ドジョウ

岩見沢市北村産のドジョウは、質の良さから食通に「北村ドジョウ」「空知ドジョウ」と愛称で呼ばれるほど、全国に知られたブランドです。

本年3月に市町村合併し岩見沢市となった北村は、石狩川や幾春別川などが流れ、雁里沼や鏡沼などたくさん古川が残る水郷のまち。ワカサギ、コイ、カワヤツメ、ヘラブナなどたくさん淡水魚が生息する漁場で、天然ドジョウは全道一の漁獲量

を誇りました。ドジョウは水田や農業用排水路、流れの緩やかな川に生息します。しかし、良質ドジョウの噂を聞きつけた本州等の業者が排水路で乱獲をはじめ、赤川地区の農家を中心に北村とじょう養殖保護育成組合を結成、採捕事業に乗り出した

のは昭和46年のことでした。「組合をつくったのは、ドジョウと水路を守るためなんだ」と、外崎善一組合長は当時を振り返ります。それまでの追い込み型の漁法は、水路にやさしいドウに代わりました。



石狩川ヤツメ文化を未来へ

ヤツメウナギ

江別市



江別市内のマンホール。ヤツメ漁が絵柄に。

開拓民を支えたヤツメ

石狩川のヤツメふたたび

サケが秋なら、春はヤツメ。サケとともに石狩川でよく食べられていた、ヤツメウナギ(カワヤツメ)。代表的な産地は江別市です。ヤツメ漁は明治中期に新潟県をモデルに始められたといわれ、今も、釣り鐘状のドウと呼ばれる特殊な漁具を使う光景は、江別の風物詩になっています。食糧生産が充分でなかった開拓期、ヤツメウナギは貴重な栄養源として、当時の人々の厳しい労働を支えました。一方現代でも、目に良いとされるビタミンAをたっぷり含み、成人病を予防する効能が注目を集めています。蒲焼きや唐揚げ、柳川などメニューも豊富で、ヤツメの需要が絶えることはありません。

この状況下、「ヤツメ文化を守ろう」という機運が高まり、石狩・空知支庁による「石狩川ヤツメ文化保全再生事業」がスタートしたのは平成16年のことです。ヤツメの生息や産卵のための調査や親魚の保護、増殖技術の開発等を柱に、漁業者・研究者・河川管理者が参加しています。現在、漁業者がふ化技術の指導を受け、自主的な増殖を目指しています。また、「ヤツメを考える会」を開き、ヤツメ料理を提供するなど、啓蒙にも努め、今年は総括となるイベントや、ヤツメを教材にした副読本の小学校への配布も検討されています。

北海道のヤツメウナギの漁獲量ピークは昭和63年の236トンで、石狩川水系でも132トンを記録。しかし、その後急激に減少し、全国からファンが集う江別市恒例「ハツ目うなぎ祭り」(4月)は、平成14年から延期になっています。

小島等店長は、「生まれ育った郷土の味を守りたい」と、30年程前の開店当初からヤツメ料理をつくり続ける第一人者です。ヤツメ再生は緒についたばかり。住民が郷土の文化を知り、関心をよせる事が再生を支える力になります。



蒲焼き(写真提供:江別市)



甘露煮「石狩川のハツちゃん」

江別河川防災ステーション
江別市大川通り6 TEL.011-381-9177



コリコリとした食感のヤツメ。江別河川防災ステーションでも味わえる。



学生達は川に入ると子供に戻る。



北海道工業大学環境デザイン学科、柳井ゼミによるヤツメウナギ調査。



茨戸川の幸 ワカサギ・モクスガニ・スジエビ他

不振を支えたワカサギ

大河石狩川の終着地・河口の石狩市はサケやニシン漁で古くから栄え、海の豊かな恵みを受け発展したまちです。茨戸川は、石狩川が生振新水路を通るよう直線化されたあと残された旧石狩川で、ここもまた古くから漁場として利用されてきました。

茨戸川、真勲別川、石狩川に囲まれた生振地区の開拓民は、苦しい生活の糧を補うため漁場に出稼ぎしたといえます。これが生振の漁のはじまりといわれ、小規模ですが茨戸川の漁の灯火を消すことなく、引き継がれて



石狩の漁業を支えたワカサギは茨戸川の代名詞。

茨戸川の水質を守る

石狩市では昭和20年代、石狩浜にニシンが消え、サケ漁も低迷する時期がありました。そこで、目を向けられたのが茨戸川です。昭和34年から茨戸川でのワカサギ増殖事業が始められ、ワカサギの漁獲量は当時の石狩町漁業総生産高の約25%を占めるまでに成長しました。増殖事業はその後継続、一般開放もされ、今では冬の結氷した茨戸川を、ワカサギ釣りのカラフルなテントが彩るほどです。

生振に生まれ育ち、漁歴30年以上の岡観光水産の岡つとむ社長に、この日の漁に同行させてもらいました。茨戸川に仕掛けられた定置網とカニカゴからは、カワガニ(モクスガニ)、ワカサギやウグイ、コイ、カワエビ(スジエビ)がつきつきと揚げられ、ピチピチと跳ねる。岡観光水産は、茨戸川漁草創から名を連ねる老舗で、ワカサギの佃煮、ウグイの甘露煮など評判の

加工品もつくっています。「むかしから生振漁師に伝わる味。ただ、北海道の人は川魚を食べないのが残念だね」。

茨戸川は近年、札幌市北部の都市化等の影響で、水質の悪化が問題となつていきます。これを受け、平成14年から「茨戸川清流ルネッサンスII地域協議会」が、水環境の改善を緊急的かつ重点的に推進する行動計画を策定。学識者、NPO、住民、河川管理者、下水道管理者等が連携し水質向上に取り組んでいます。

岡観光水産
石狩市生振39-2 TEL.0133-64-3611

スジエビは甘露煮に。

生振に伝わるウグイの甘露煮。骨は柔らかく身がしまっている。

石狩
この味

INTERVIEW

専門家に聞きました

川の食文化を守るために

地域の声を聞き、 何度も自然を見る

河川生態系の再生をテーマに研究を続け、石狩川等の自然再生や、石狩川ヤツメ文化保全再生事業に参加されている柳井先生。モットーである「現場主義」で、学生達とヤツメウナギの産卵・生息環境を調査しました。

「ほくらが聞き取り調査した住民は60〜70歳代で、当時の様子をちゃんと覚えています。ヤツメウナギは昔の貴重なタンパク源でした。お父さんが捕まえてきて調理までするという、当時の家族の風景まで見えてくる。ヤツメは春と秋に遡上しますが、新十津川町では秋にヤツメのお祭りがあったそうです。文化でもあったんですね。」

自然再生事業では、このようにお年寄りの参加が不可欠です。昔の話がイメージづくり・絵づくりにつながり、復元の目標がたてやすい。同じように、子供も参加させる。身近な自然を体

で感じることで、自然の価値を見直すきっかけになります。自然というのは時間の経過によって、刻々と変化します。たとえばヤツメの産卵場所は2週間程で変わる。だから学生達にはくり返し現場をみて、自然の本質を見極めるよう指導しています。そこから保全に何が必要かを考える。研究室にいるだけではわかりません」。

どんな魚も 上れるものを提案する

「ほくらが言いたいのは、失った自然の修復は決して不可能ではないという事です。時間はかかるだろうけど、田畑を壊してまで復元するのではなく、ちょっとした工夫でできます。」

いまつくられてる魚道は、サケ・マス類を対象にしています。言葉は悪いけど「雑魚」と呼ばれる魚達もそれぞれ役割を持っていて

そういった物質循環を明らかにしていきたい。われわれはどんな魚でも上れるものを考え、提案しようと思つています。そして地域の人が身近な自然に関心を持ち、主導的に関わっていくことが、自然再生には、とても重要なのです」。

北海道の農家の軒先でサクラマスの産卵を見て、本州から北海道に移り住んだ柳井先生。この光景が原動力になつていいます。その想いは、学生達に継がれ…。郷土に伝わる味は、これからの川と人との係わりを教えてください。



石に吸盤をくっつけながらのヤツメウナギの産卵。

北海道工業大学
環境デザイン学科 農学博士
柳井 清治さん

移動屋台ワルン
インドネシアにはワルンと呼ばれる移動屋台が多く、仕事を持つインドネシア人の多くはワルンで食事を取ります。日本人でもワルンでの食事にトライする人はいますが、汚い水と油を使っており、またその辺のマンホールのフタなどをまな板代わりにして、野菜などを切っているのが衛生的ではありません。

ちなみに私と同時期に当地に着任したJICA専門家はワルンで昼食をとった日の夜、会議中に突然気を失って倒れました。油が原因だったようですが、軽率なことはいない方が賢明と実感した瞬間でした。



汚職という名の伝統文化
インドネシアに限ったことではありませんが、途上国の発展を妨げている最も大きな問題の一つが汚職です。これは政府高官レベルはもとより、街中での警官にいた

るまで蔓延しています。ユドヨノ大統領は汚職撲滅を掲げ、また各ドナーはそのための種々のプログラムに取り組んでいますが、長くインドネシアに染み付いたいわば「伝統文化」的な部分

多様な民族性
インドネシアは文化の異なる島々を統合した国家であり、単一民族的な国家の日本人には理解できない部分が多々あります。要領の良い者は、さまざまなパイプを作つてどんだん上に行けますし、逆の者は一生貧乏人で暮らす、そんな資本主義社会、市場原理主義の現実を感じています。平等という名の社会主義的な日本にあれば感じられないことが多く、自分にとっては非常に刺激的な国です。チャイニーズマフィア、国際協力という舞台での中韓の台頭の話等も書きたかったのですが、残念ながら紙面が足りません。インドネシアの実際の雰囲気は少しでも伝わっていれば幸いです。

自然との共生？
スマトラ島パダン市に行ったときのことです。洪水頻発地域ということもありますが、たまたま雨が降って浸水被害が発生しました。日本では洪水被害が出ると非常に深刻に受け止めますが、こちらの人は非常におおらかでした。その昔、洪水被害の様子を表す言葉で「桑田変海」という語を聞いたことがありますが、まさに土地がそのような状況になっているのに子供達ははしゃぎ、大人達はまあ良いか、程度の反応でした。自然のプールのできて大喜びしている子供達の笑顔が印象的でした。



したたか 陽気な 途上国 インドネシア 共和国

洪水にはしゃぐ子供たち(パダン)



オランダが建設した西放水路(ジャカルタ)



川沿いの違法住居(ジャカルタ)



オランダ統治時代の跳ね橋(ジャカルタ)



独立行政法人 国際協力機構(JICA)
インドネシア共和国公共事業省水資源総局派遣
水資源政策上級アドバイザー

平井 康幸

貧困層の人口が多いのは事実ですが、国自体が貧困という感じではありません。雨が降って米が作れる、途上国とは言え、東南アジアはアフリカのような悲壮感はありません。首都ジャカルタやバリでは通常の生活用品以上のものも日本と変わりなく手に入れることができますし、快適な生活を送ることができます。

現在、ジャカルタでは高層ビルやモノレール(MRT)の建設が進み、ちょうど日本の高度経済成長時代を思わせます。

ジャカルタ市内には縦横無尽に直線水路が張り巡らされています。この多くはオランダが植民統治時代に整備したものです。オランダは放水路+水門方式が得意で、彼らが整備した地区には必ずと言っていいほど水門が登場します。

現在、インドネシアを始めとする東南アジアが抱える水資源上の最も大きな問題は、水質環境と廃棄物です。先進国のようにゴミを処理するという意識がまだまだ低く、多くのインドネシア人は川の

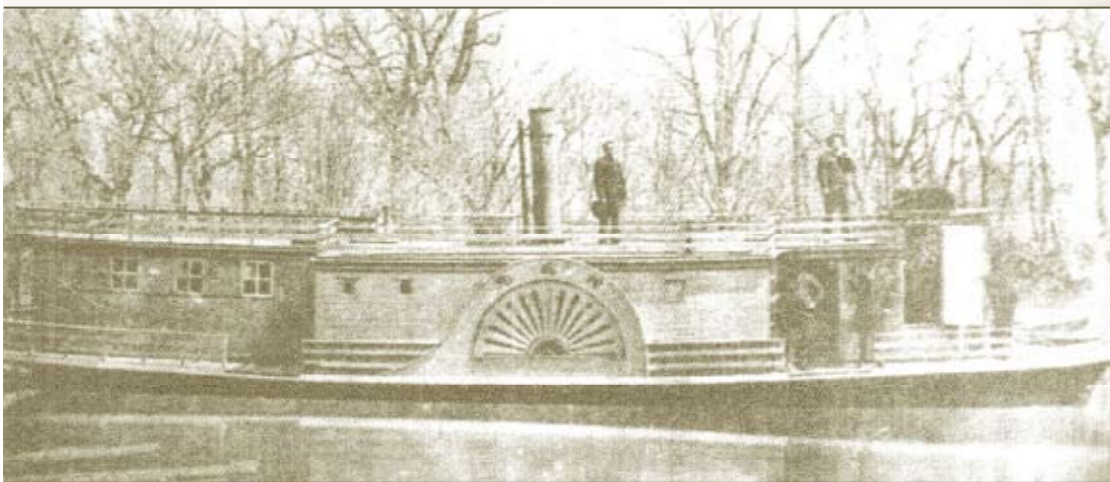
みならず、どこにでも平気でゴミを捨てます。またジャカルタなどの大都市の河川沿いには、いわゆるスクワッターと呼ばれる不法居住者が住み着き、多くの廃棄物を出すこともとより、治水上、治安上の問題となっています。

もちろんそのような問題解決の支援も含めて私自身働いているわけですが、インドネシアのどうか、政府内でも「だってしょうがないじゃない」的な発想が支配的で、真剣に解決策を模索しようとする姿勢が希薄なので、詰める夕

月形潔が見た須部都
須部都山から当別山麓までは直距離でおよそ五〜六里、横幅およそ二里余、西北に山を負い、東南に石狩の大河をかかえ、広い原野は高低もあまりなく肥沃で、農業をはじめめるにはここが北海道第一の土地といつてよいであろう。まして、諸物資を運搬するには石狩川に小汽船を運航させ、石狩、小樽を往復させる便があるの、須部都から当別村までの陸路の道路を開削し、橋を架け通信の便も開けば、賑やかな地になることが予測できる。ここにおいて他に、どんな良いところがあるであろうか――月形 潔「北海回覧記」から抜粋

神威丸と安心丸
権戸集治監の開庁により、たくさんの人と物資は船で運ばれた。丸木舟は不便なため、権戸集治監は内務省に石狩川汽船航行の必要性を訴えた。明治17年秋、監獄汽船と呼ばれる石狩川で初の外輪船2隻が完成。「神威丸」と「安心丸」だ。16・3トン、川の水量が少なくても運航できるよう喫水を約60cm浅くして、淀川舟やはしけ舟をひいて航行できるようつくられた。当時、石狩川初の官用鉄船としてその速さと堂々たる姿を誇り、石狩、権戸間を毎日のように運航した。ほかに、貨物運搬を目的とした監獄自家製の木船「空知丸」や、民営では大倉汽船（後の石狩川汽船）の鉄船「権戸丸」が江別、月形間を運航した。

当時、監獄正門から一直線にトロッコのレールが敷設されているところを「監獄波止場」と呼んだ。護送されてきた囚人の最後の港であり、囚人が荷揚げ荷卸しをした。夏は70〜80名の囚人が、石狩川の流木除去作業を2ヶ月間行ったという。



権戸集治監を行き来していた監獄汽船「神威丸」(「写真集えべつ 風のまちの歴史」社・江別青年会議所)



明治19年再建された権戸集治監の本庁舎(現在の権戸博物館)

- (参考資料)
- 月形町史 月形町
 - 石狩川舟運史 (財)石狩川振興財団
 - 川の道 石狩川の舟運物語 (財)石狩川振興財団
- 見どころ
- 月形潔の碑 月形町市北
 - 月形権戸博物館 月形町1219

舟運と開拓の原点 権戸集治監と監獄汽船

明治14年、未開のシベツプトに、こつ然と現れた巨大な集治監―それは現代日本創世を物語り、北海道の内陸開拓の緒となった。



権戸集治監の本庁舎(明治14年〜19年)月形権戸博物館蔵



※この図は現在の地図をもとに、当時の位置をあてはめて作ったものです。



権戸監獄創設当時の月形本町通り(明治15)

士族反乱を背景に
明治草創、新政府は土農工商や俸禄制度を廃止するなど思い切った施策をとった。また政府内は征韓論で紛糾し、西郷隆盛らが下野するなど士族層に影響を与え、明治7年の佐賀の乱、同9年の神風連の乱、秋月の乱、萩の乱、さらに最大で最後の内戦、西南の役が同10年に起こるに及んだ。いずれも鎮圧されたが、多数の国事犯、重要犯を隔離・収容する集治監の設置が急務となった。明治12年に東京と宮城につくられたが足りず、3番目の集治監候補地に北海道が求められた。危険分子を未開の地に隔離できること、囚人を開墾にあたらせ、自給自足させれば経費軽減できること、更正した囚人を定住させて稀薄な人口を増やせることがその理由だ。

内務省長官・伊藤博文は、黒田清隆開拓使長官に適当な地を選ばせた。黒田は、「十勝国十勝川沿岸」、「石狩国石狩川ノ上シベツ」、「胆振国有珠郡ノ奥後志山麓ノ辺」の3つを候補地としてあげた。これを受け伊藤は、信頼する内務省御用掛権少書記官・月形 潔を団長に任命し、月形以下8名が調査のため明治13年4月21日、函館に降り立った。



江別港に停泊中の外輪船・上川丸 (「写真集えべつ 風のまちの歴史」社・江別青年会議所)

背景の写真/石狩川対岸から月形市街を望む [石狩川・月形](月形権戸博物館蔵)



ハーブが育む、ハーブが香る、 美しき農村



子供からお年寄りまで植樹に参加。

ハーブの香るまちづくり
アイヌ語で「モセユーセ」
イラ草のあるところを意味する妹背牛町。イラ草は肥沃な土地に生える草で、衣類の繊維として知られ薬効もある、いわばハーブの一種です。

石狩川と雨竜川などの水の恵みに育まれ、全道屈指の米どころ北空知の妹背牛町では、付加価値の高い米づくりを目指し、平成10年から減農薬米の栽培に取り組んできました。しかし、平成12年にカメムシが大量発生し、米の品質が低下する事態に、そこで注目されたのが、繁殖力が強く、水田のあぜに植えることでイネ科雑草を駆除し、カメムシを棲み難くする効果があるハーブです。実践事例では、カメムシ被害はほとんどありませんでした。この結果を受け、妹背牛町では、「ハーブの香る、まちづくり」計画を策定。全農家のあぜにハーブを植栽するとともに、公園や商店街、堤防などをハーブで彩る癒しの農村を目指します。

高まる食の安全へのニーズに 対応する、ハーブを活かした クリーン農業の取り組みは、北 海道開発局が進める「地域協働 プロジェクト」の支援も受けて います。水田に隣接した石狩川 と雨竜川の河川敷に、平成16年 度から住民参加でハーブを植え 続け、その後の成育状況調査等 も行われています。

また、公園通りに植えられたハーブには名前と説明が沿えられ、町内のどこにどんなハーブが植えられているかを記した「ハーブノート」を全戸に配布。ハーブの名前を覚えたり、問い合わせがあったりと、徐々に町民も意識するように。



水田を守るアップルミント、スペアミント、ブラックペパーなど。



刈り取ったハーブでつくられた特産品「ハーブ焼酎」。
●妹背牛町役場 TEL:0164-32-2411

今夏は、町内9区住民区主催で「第1回9区ハーブ10万本植栽事業」がスタートしました。妹背牛町では、消費者との農業体験交流事業を積極的に推進していますが、消費者も一緒にハーブを植えるそうです。妹背牛町のハーブは、さわやかな交流も香ります。



水田に隣接する堤防をハーブで彩る。

夕張川洪水・危機管理演習 自助・共助・公助による防災対策を目指して H18年7月5日(水) 江別市民体育館



演習は演習統管、指揮部、演習部に分けられる。



演習結果を今後の災害対応に活かしていく。

ロールプレイング方式のこの演習は、防災担当者の対処能力の向上と組織間の連携強化等を目的に、平成13年度から石狩川とおもな支川を対象に毎年行われています。

今年度は夕張川です。江別市・岩見沢市・南幌町・長沼町・栗山町・由仁町、空知支庁・石狩支庁、および石狩川開発建設部の、各災害対策本部が集結。防災における自助・共助・公助の重要性から、住民12人も参加しました。

夕張川流域で洪水と地震が発生したと想定。つぎつぎと入ってくる情報への対策と対処。市民は被害情報を連絡し、防災対策のレクチャーも受けました。集中豪雨による被害が絶えない昨今、官民が共通認識を持って情報を共有し、助け合う防災の重要性を感じた演習でした。

【ロールプレイング方式の演習とは】

実際の災害に近い場面を設定して、演習者は災害対策本部等を構成するそれぞれの立場で災害対応を模擬体験する演習で「役割演技法」とも言われます。演習統管、指揮部、演習部に分けられ、演習部は、演習シナリオ（災害発生規模、時間、被災規模等）を知らされおらず、指揮部から次々と付与される「様々な災害状況に関する情報」に対して、情報収集・分析・判断するとともに対策方針を検討するなどの災害対処活動を図上で行います。

第58回 全国植樹祭イベント 第57回 北海道植樹祭 in 滝川(丸加高原) 川を育む森を育てよう H18年6月4日(日)



滝川の市民団体が多数参加した。



親子や友達同士で、レクリエーションの場に。

全国植樹祭は、過度の森林伐採により戦後荒廃した国土の復興をめざして、昭和25年に山梨県で開催されて以来、毎年、全国各地で行われています。来年度は、北海道苫小牧市で予定され、イベントとして北海道植樹祭が滝川で開催されました。北海道植樹祭は、全国植樹祭を記念してはじまり、道民との協働の森づくりを進める中心的な行事として、毎年たくさんの方が参加しています。

当日は滝川市民を中心に約2,100人が参加。植樹祭にふさわしく、会場を2つ用意し、2回に分けて植樹しました。また、札幌から足の不自由な子供達も参加するなど、緑への関心の高まりを感じた一日でした。全国植樹祭で使うミズナラやナナカマドの苗木は、滝川市の子供達等が育て、開催地・苫小牧市の子供達にエールとともにリレーされました。

第58回 全国植樹祭
明日へ未来へ
北の大地の森づくり
平成19年6月24日(日)
苫小牧市苫東静川

北海道開発局

石狩川水系豊平川河川整備計画の概要

北海道開発局では、学識者や住民の方々の意見を反映し、石狩川水系豊平川河川整備計画を平成18年9月22日に策定しました。ここでは、河川整備計画策定までの手続きや豊平川河川整備計画の概要などを紹介します。

1 河川整備計画の手続き及び内容

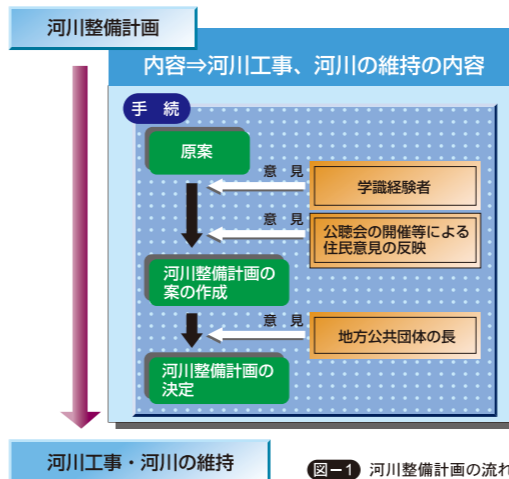


図-1 河川整備計画の流れ

2 石狩川水系河川整備計画の策定状況

平成16年6月14日に石狩川水系河川整備基本方針が決定され、石狩川流域の河川整備計画の策定手続きに着手しました。計画の策定にあたり、学識経験者の意見を聴くために、平成16年4月30日に第1回石狩川流域委員会が開催され(表-1)、平成18年9月30日までに23回の委員会と6回の現地視察が行われてきました。

石狩川水系河川整備計画の特徴としては、流域面積が広大であることから、流域を本川・大支川ごとに8分割して計画を策定することとしており、現在までに4河川の河川整備計画を策定しています(表-2、図-2)。

また、関係住民の意見を反映させるために、各河川整備計画ごとに公聴会を開催していま

表-1 「石狩川流域委員会」委員名簿

氏名	所属	※備考
赤間 由美	妹背牛町立妹背牛小学校長	
上田 和宏	北海道大学北方生物園フィールド科学センター教授	
内田 和男	北海道大学大学院経済学研究科教授	※副委員長
黒木 幹男	北海道大学大学院工学研究科助教授	
小林 英嗣	北海道大学大学院工学研究科教授	
丹保 憲仁	放送大学長	※委員長
丹保 達一	(財)北海道環境財団理事長	
雨竜川 和子	北海道教育大学札幌校非常勤講師	
中井 徹明	北海道大学大学院農学研究科教授	
長澤 中村	北海道大学大学院農学研究科教授	
山田 正	北海道大学工学部土木工学科教授	

(敬称略五十音順)

3 豊平川河川整備計画の策定

〔1〕流域の概要
豊平川はその源流を小漁山(1,235m)に発し、豊平峡、定山渓を下った後、道都札幌市街地を河床勾配1/150〜1/300の急勾配で貫流し、我が国屈指の大川である石狩川に合流する幹線流路延長72.5km、流域面積902km²の河川です。

流域内には札幌市のほか、石狩市、江別市、北広島市、当別町の4市1町が存在し、流域内人口は約208万人と北海道の人口の約37%を占めています。

〔2〕特徴と課題
豊平川の特徴と課題としては、次のことが挙げられます。

①洪水時には三角波が発生するよう高速の流が生じやすい。

②高速な流れにより、河岸侵食及び高水敷の洗掘が起こりやすい。

〔3〕目録及び実施に関する事項
豊平川河川整備計画は石狩川水系河川整備基本方針に即し、総合的な管理が確保できるよう河川整備の目標及び実施に関する事項を定めており、その対象期間は概ね30年としています。目標及び主な実施内容は次の通りです。

①目標
豊平川流域及び伏龍川流域に甚大な被害をもたらした戦後最大規模の洪水である昭和56年8月下旬降雨により発生する洪水を石狩川の整備と相まって安全に流すことを目標としています。

②主な実施内容
〔流下断面の確保〕
豊平川下流や、支川厚別川等では河道断面が不足しているため、魚類や鳥類の生息環境に配慮しつつ、洪水時における水位を低下させるため河道を掘削する(約16km)とともに、樹木の除去や下枝払い等を行い、流下

図-2 石狩川流域図

③降雨後、短時間で洪水が発生する。

④人口、資産が集中している市街地を貫流することから、堤防の決壊による氾濫時の被害が甚大である。

これらの特徴と課題を踏まえて河川整備計画の目標と実施に関する事項を定めています。

〔堤防の保護対策〕
急流河川特有の高速流による河道内の洗掘や浸食から堤防を保護する対策を行います(左右岸あわせて約14km)。

〔低水路の河床洗掘対策〕
上流部では、河床洗掘が生じ既設護岸が沈下したり、根入が不足していることから、既設護岸の根継ぎなど、低水路の河床洗掘対策を行います(約4km)。

〔床止の補修・改築、魚がすみやすい川づくり〕
市街地間に設置されている床止め等は、長年の水の流れにより破損や摩耗が生じていることから、サケなどの魚類の生息環境に配慮しつつ、7基の床止の補修・改築を行います。

〔まちづくりと連携した治水対策〕
東札幌地区において、札幌市が進める土地区画整理事業と連携した堤防整備を行うとともに、災害時における水防活動や災害復旧の拠点等として活用する河川防災ステーションの整備を札幌市等と連携して整備します。

〔内水対策〕
関係機関が連携して内水対策を進めます。

4 今後の予定

豊平川流域では、地域の自然環境、都市の発展、産業・風土文化などを踏まえ、魅力的で活力溢れる地域づくりの軸となる豊平川の整備、管理を本計画に基づき着実に実施していきます。また、石狩川水系の残り4河川の河川整備計画の早期策定に向け、検討や意見聴取などを進めていきます。

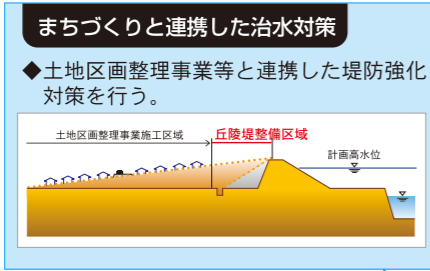
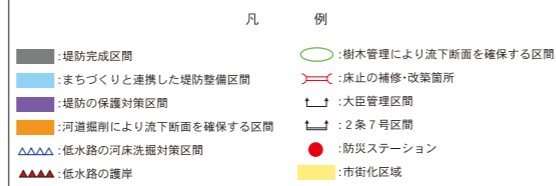
石狩川水系豊平川河川整備計画の概要

豊平川流域の概要

- 流域面積/902.3km²
- 幹線流路延長/72.5km
- 流域内市町村/札幌市、石狩市、江別市、北広島市、当別町
- 流域内人口/約207万9千人

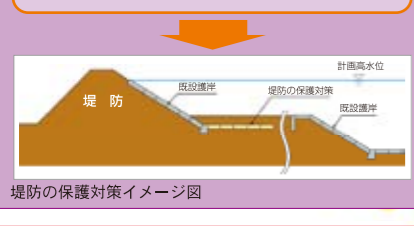
河川整備計画の目標

- 対象とする河川
豊平川、月寒川、厚別川、伏龍川他
- 対象期間/概ね30年
- 洪水対策の目標
戦後最大規模の昭和56年8月下旬降雨により発生した流量を安全に流す。



堤防の保護対策

◆昭和56年下旬洪水では、高速の乱れた流れにより河岸、高水敷が浸食。



堤防の保護対策イメージ図

床止の補修・改築

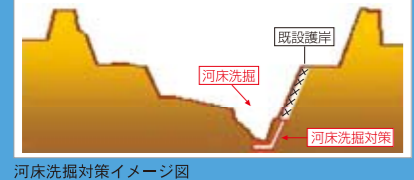
◆破損、磨耗、空洞化等により安全性が損なわれている床止の補修・改築を行う。



本体直下の空洞化(7号床止)

低水路の河床洗掘対策

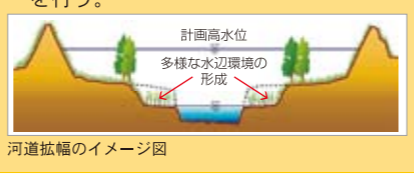
◆河床洗掘などの状況を監視しつつ、既設護岸の根継ぎ等を行う。



河床洗掘対策イメージ図

流下断面の確保①

◆河道断面が不足している区間は、河畔林や水際等の環境に配慮しつつ河道の掘削を行う。



河道拡幅のイメージ図

魚がすみやすい川づくり

◆引き続き魚類等の移動の連続性を確保し、サケの産卵環境等の保全に努める。



流下断面の確保②

◆洪水流下の阻害となっている樹木は、除去や下枝払い等を行う。



北海道開発局 石狩川開発建設部

石狩川流域の水源地を巡る ダムスタンプラリーを実施しました

水源地地域ビジョンと ダムスタンプラリー

ダムやダム湖のある水源地周辺は、緑深く、野生生物が棲み、大自然の息吹きに満ち満ちています。また、水源のまちでは、住民が中心となって「水源地地域ビジョン」に取り組んでいます。水源地地域ビジョンとは、ダムやダム湖周辺の環境を活かして流域圏の交流を育み、水源地域活性化を図るための行動計画です。平成16年5月末現在で、全国99ヶ所のまちがビジョン策定および行動計画に取り組み、北海道は14のダム水源地域が対象になっています。

豊かな自然環境に恵まれた北海道の水源地は、体験型観光や自然体験学習に適した場として期待されています。このような状況の下、石狩川開発建設部では、管轄する6つのダムを結び、周辺の自然や施設を巡ることで、水源地の自然や地域の魅力を感じてもらおう「ダムスタンプラリー」を実施しました。

対象となるのは、定山溪・豊平峡・

本誌第28号でも石狩川流域の水源地域ビジョンの概要を紹介しましたが、水源地では、現在、個性豊かな活動が行われています。水のふるさと最新の情報をお届けします。

水のふるさと通信

漁川・桂沢・滝里・金山の6つのダム。

応募用紙にダム資料館やダム管理所に設置されているスタンプを押し、アンケートに答えていただき送付してもらいます（1人で1箇所、あるいは複数のダムで応募可能。なお、それぞれのダムでは、応募者にオリジナルグッズが進呈されました。

今夏は例年になく真夏日（30度以上）がつづいたため、たくさんの方が涼を求めて、ダムを訪れました。ダムスタンプラリーも好評のうちに終了することができました。



石狩川の水源地を巡る！
ダムスタンプラリー
平成18年
8月15日(火)～10月15日(日)

- 定山溪ダム
- 豊平峡ダム
- 漁川ダム
- 桂沢ダム
- 滝里ダム
- 金山ダム

豊平峡ダム・定山溪ダム 水源地域ビジョン



3年にわたってみんなで話し合った、「豊平峡ダム・定山溪ダム水源地域ビジョン」行動計画が完成しました。ビジョンテーマは、「美しい森ときれいな水を未来へ！」。定山溪ダム周辺の自然や歴史・文化等を再発見する、定山溪ダム情報マップ作りをはじめ

漁川ダム周辺環境整備 連絡協議会 漁川ダム水源地域ビジョン



今年も市内の小学校と運動in漁川ダム」を、9月21日(木)に開催しました。ダムの施設を見学したあと、ヤチダモの苗木をみんなで植えて、恒例の森のお手入れ。子供達は木を傷つけないよう、この器用に使うて枝払い

桂沢ダム 水源地域ビジョン



「桂沢ダム水源地域ビジョン提言書」がついに完成！ビジョンテーマは、「桂沢の自然と三笠の歴史の再発見」。早速、7月29日(土)の桂沢ダム森と湖に親しむ旬間で、「桂沢トムソーヤ」を開催し、ツリーイング(木登り)、化石のクリーニングやネイチャーゲームなど、三笠の特長を活かした体験メニューを提供しました。

たきさとクラブ 滝里ダム水源地域ビジョン



6月に水質改善のため、湖面で水耕栽培を試みました。三つ葉やセリ、ハーブやトマトなど14種類の植物をマットに植栽。たくさん育て、9月4日(月)に、試食会を開きました。メンバーのレストラシエフ・岡さんがつくってくれた新鮮サラダに舌鼓！また、「ワクワク！じやがいもさぐり掘りお料理体験会」を7月27日(木)に開催し、子供達は農場でジャガイモを掘ったり、郷土の恵みを体で感じました。

カナダム 金山ダム水源地域ビジョン



8月23日(水)、かなやま湖を一望できるゼロの山に、道標と入林箱を設置しました。9月9日(土)、今後につなげる試みに「かなやま湖お宝さがしカヌーイング」を開催。カヌーを楽しみながら、自然を観察し、歴史的痕跡を探しました。再発見がいっぱい！翌10日(日)、「道有林100周年記念事業」と連携して、ゼロの山登山と森林観察会を行いました。少しずつ活動の環が広がっています。

北海道開発局 旭川開発建設部

施設をめぐる多彩な魅力を楽しむ 石狩川・川のミュージアムネットワーク スタンプラリー開催中!

個性豊かな川のミュージアムに 出かけませんか?

北海道遺産・石狩川のほとりに連なる個性豊かなミュージアム。旭川開発建設部と石狩川開発建設部では、石狩川流域に点在する川の自然や歴史をテーマにした6つのミュージアムを結ぶことで、石狩川の多彩な魅力をたくさんの人に再発見してもらおう、「石狩川・川のミュージアムネットワークスタンプラリー」を企画し、開催しています。

**石狩川・川のミュージアムネットワーク
スタンプラリー** 期間：平成18年7月15日(土)～平成21年3月31日(火)

《対象施設》

- 川の博物館 石狩市新港南1丁目28-24 ※施設改修工事のため平成18年10月16日～平成19年3月31日まで休館します
- 江別河川防災ステーション 江別市大川通り6
- ウォーターヒルズスクエア 砂川市西5条南8丁目1-2
- 川の科学館 滝川市西滝川1 ※冬期間休館(平成18年11月4日～平成19年4月28日)
- 川のおもしろ館 旭川市常盤公園内
- 川のふるさと交流館さらら 旭川市永山町13丁目

《参加方法》

- 1.ミュージアムを訪ねる 6つのミュージアムのどこからはじめても、どのように回ってもOK! 身近な施設からはじめましょう
- 2.台紙をもらう 最初に行った施設の係員に声をかけ、台紙をもらいます
- 3.スタンプを押す 台紙をもらったら備え付けのスタンプを押し、日付も記入
- 4.スタンプが揃ったら 6つの施設を制覇したら、台紙のクイズ欄を埋めて施設の係員に伝えましょう。ゴールドステッカーと石狩川オリジナル絵葉書が進呈されます。たくさんのご参加、お待ちしております!



長さ268km、流域面積14,300km
国内屈指のスケールを誇る石狩川の河口から上流へ、6つの個性豊かな河川広報施設が連なっています。スタンプラリーにチャレンジして、壮大なる石狩川268kmの旅へ

1 川の博物館



2 江別河川防災ステーション



3 ウォーターヒルズスクエア



4 川の科学館



5 川のおもしろ館



6 川のふるさと交流館さらら



5月10日(水)には会議室(待機室)で水防連絡協議会が開かれた。



8月4,5,6日に行われた少年サッカー大会。防災ステーション前グラウンド(天塩川河川敷)



選手達が防災ステーションの手洗い場を利用。



士別河川防災ステーション全体風景。



天塩川全景ジオラマ。

士別河川防災ステーション・川の遊学館「めぐみ」



完成! 「川の遊学館めぐみ」

河川防災ステーションが地域の身近な施設となるよう、愛称を募集した結果、生活の源である大切な水の恵みに感謝する意味がこめられた「川の遊学館めぐみ」に決定しました。平成18年5月1日に行われた士別市主催の開所式では、植樹会なども行われ、士別市内外から100名ほど参加しました。

士別河川防災ステーション

北海道遺産・天塩川に待望オープン



平成18年5月1日(月)、関係者や地域の方々に参加して開所式が行われた。

石狩川の個性豊かなミュージアムは、たくさんの方に利用されています。そして石狩川とともに北海道遺産に選定されている、朔北の大河・天塩川にも、士別河川防災ステーション「川の遊学館めぐみ」が誕生しました。

平成13年に着手され、士別市と旭川開発建設部で整備を進めてきた、士別河川防災ステーションが本年完成しました。天塩川上流域の水防活動の拠点として、普段は河川広報施設としての活用や高水敷に整備されたサッカー場の支援施設としての活用が期待されます。

士別河川防災ステーションは、洪水などの災害が発生したときに防災・復旧活動の拠点として利用される施設です。災害が起こった時に少しでも被害を小さくできるような必要な資材などをあらかじめ保管・管理しておくほか、地域に暮らす方々の避難場所としても利用されます。また、平常時には、河川広報施設として、天塩川流域を見渡せるジオラマや天塩川Q&Aなど天塩川を学習できる展示室が整備され、水防に関する会議の開催、毎年天塩川河川敷で開催されている少年サッカー大会でも、会議室・トイレなどが活用されています。

札幌市



整備の基本的な考え方

ワークショップで検討した整備方針はつぎの通りです。

- 「1. 子どもが遊べる川づくり」
- 「2. 人が立ち寄り、憩える川づくり」
- 「3. 安全で安心な川づくり」
- 「4. 生きものにやさしい川づくり」
- 「5. 水と緑で地域をつなぐ川づくり」

これを「西野川を育てる会」で検討し、つぎのように具体化させました。

- 「1. 現況樹木の保全」
- 「2. 区域を分けた植栽の方向性」
- 「3. 水辺への接近や川の横断に配慮した施設の整備」
- 「4. 誰もが使いやすい施設の設置」
- 「5. 住民が参加できる植栽や整備」

西野川環境整備事業

みんなで考えつくった「さらりんひろば」



「これからの西野川」

ワークショップの検討成果である整備の基本理念、基本方針を関係部局で将来にわたり継承させ、また、地域住民が末永く川を見守り、大切に育ててもらうため、住民参加で合意された事項を今後活かす維持方針を作成しました。これからは必要に応じて西野川に関わりを持ちたいと希望する地域住民と、行政とが相談しながら西野川を見守っていききたいと思えます。

■西野川の概要

西野川は札幌市西部に位置し、手稲山の東峰（標高530m）を源に、西区西野地区を北に中の川へと流れ込む、流域面積1.6km²、流路延長3.1kmの二級河川です。流域は昭和40年代から宅地化が進み、洪水防止を目的に下流から改修工事を進めています。その中でも西野西公園に面した区間は、野生生物も棲む自然豊かな空間で、地域住民に愛着を持たれています。そこで、この地区の約260mについて、計画段階から積極的に地域住民の声を取り入れ、平成17年度の改修工事にあわせて環境整備を行いました。

西野川の概要

住民参加の環境整備

地域住民の声を反映させるため、札幌市の河川事業初の試みとなる住民参加のワークショップ形式に。平成15年度から3年かけて、さまざまな議論を重ね、その中から生まれた多くのアイデアを整備に取り入れました。平成15年度は「西野川環境整備ワークショップ」で、平成16、17年度はワークショップ参加の有志による「西野川を育てる会」で検討を重ねました。

さらりんひろば

整備区間は公募により、「さらりんひろば」に命名。「西野川の水が、さらさら」とささやくように音を立て、近くの森からは「びりん」と葉音が風につれて流れ、人の心を和ませる「イメージ」で、地域の小学生が考えました。地域住民の憩いの場、子供達の遊び場、総合学習のフィールドなど、さまざまな活用が期待されています。

北海道



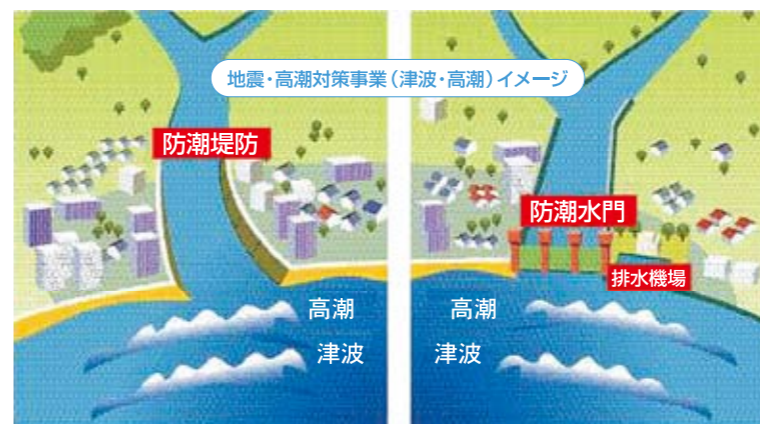
北海道南西沖地震で津波被害を受けた地区の19河川

地震・高潮対策事業の完成

対策工法と水門方式と堤防方式

対策工法は、水門により津波が川を遡上することを防ぐ水門方式と、堤防を嵩上げしコンクリート護岸などで覆って丈夫にすることで、津波が川を遡上しても溢れないようにする堤防方式があります。特に水門方式は取り付けてある地震計が震度4を感知したときや、気象庁が津波警報などを発したときに自動的に水門が閉まる仕組みになっています。

これまで17河川の施設が完成し、残る折川・泊川の2河川についても、今年度中に完成する予定です。



写真真・図「北海道南西沖地震記録書」より

石狩川振興財団の活動報告

http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/index.html

旭川市

川の記憶・まちの記憶探訪～ 石狩川エコミュージアム形成に向けて～

第1回 江別探訪(乗船編) 8月3日(木)
第2回 江別探訪(まち歩き編) 8月22日(火)

私達のくらしと川には深い関わりがあります。川はまちのなりたちや自然・産業・文化などにさまざまな影響を与え、それがまち特有の魅力にもなっています。目に見えるもの、見えないものを問わず、これらを博物館の展示物と捉え、地域の人々が学び、体感し、大切に思い、後世に引き継いでいく活動が「石狩川エコミュージアム」です。

第1回 江別探訪 乗船編(千歳川・石狩川)



約100年前にできた王子製紙工場。水量豊富なこの地が選ばれた。「石狩川って大きいねえ」

ショウドウツバメの巣を発見!

第2回 江別探訪 まち歩き編(江別市街地)



江別レンガでつくられた火薬庫。



かつてここでしょう油や味噌が作られた。

2006 子ども記者団

8月9日(水)
支笏湖ビジターセンター 漁川ダム 茂漁川 江別河川防災ステーション



漁川ダム

支笏湖

今年で4回目となる「子ども記者団」。この企画は、子供達が川に親しみ、体験したことを新聞紙上で発表するものです。約40名の小学5、6年生が参加、支笏湖や漁川ダム、茂漁川を見学し、江別河川防災ステーションでEポートにチャレンジしました。



支笏湖水中観光船



漁川ダム



自転車でたどる石狩川

サイクリングロードに行く

旭川を起点に石狩川沿いを南北に延びる「旭川層雲峡自転車道」。初秋のとある休日、旭川市から上流の愛別町に向けたおよそ30kmを、豊かな水辺の表情を楽しみながら自転車で辿ってみた。



旭川市のサイクリングロードは全線舗装で快適。水辺の表情の変化を楽しみながら旭川と愛別まで片道およそ30キロの旅。



石狩川百景「比布大滝」。今もわずかに残る瀾の音が、当時の荒々しい姿を思い起こさせる。

北海道遺産に選定された、旭川市のシンボル「旭橋」をスタート。河川敷のサイクリングロードは、道幅も広く走りやすい。週末は、草野球の少年達や、パークゴルフ、ジョギングを楽しむ市民達で賑わっている。町の中心に広がる広大な河川空間が、市民の身近な生活の場として都市に受け込んでくれているのは、旭川が名実ともに「川のまち」であることを実感させる。



当麻スカイパークの滑空場。横たわって翼を休めるグライダーの横で、自転車も一休み。

頃自動車に乗っていると気づかないが、川もまた、町と町を結ぶ「みち」であることを実感しながら、ペダルを踏み進める。当麻町に入る頃には、背中がうっすらと汗ばんでくる。ウィンドブレーカーを脱ぎ、築堤上の快適な道を進む。上空をグライダーが舞う当麻スカイパークの滑空場を過ぎたあたりから、川幅は徐々に狭くなり、水辺が間近にせまってくる。旭橋をスタートした頃の「大河」の様相は、いつの間にか影をひそめたようだ。

つくり出す荒々しい流れは「比布大滝」とも呼ばれ、10年程前に北海道開発局により百景に選定された。しかしいつの間にか岩盤は崩壊し、滝はその姿を消したという。幻の滝…。今では小さな瀨音だけが、昔の姿をしのぼせる。河川敷内のサイクリングロードからは町の様子が見えないため、自分が今どのあたりを走っているのかがピンとこないが、橋をくぐる間隔が極端に長くなってきたことが、町や道路からはるか離れたところを走っていることを気づかせてくれる。日

トピックス

9月13日(水)から道北地域を舞台に開催された、日本最大の自転車レース「ツール・ド・北海道」。大会の初日を飾るタイムトライアルが、旭川市の石狩川河川敷で行われました。当日は天候にも恵まれ、多くの市民が国内外のトップアスリート達の健脚に魅せられました。奥に見えるのは、北海道遺産にも登録されている「旭橋」。旭川市民にとって最も身近な橋です。

のパークゴルフ場が見えてくる。対岸には柱状節理が間近にせまる。ここが終点だ。自転車道計画としては、ここからさらに河川敷や国道39号沿いを經由して層雲峡温泉へ至る、総延長およそ70kmのサイクリングロードの整備が構想されている。紅葉が色づく渓谷の間を、層雲峡まで自転車で駆け抜けることができる日が楽しみだ。



過ぎゆく風景、変わりゆく季節を楽しむのに、自転車ほど適した乗り物はない。一度お試しあれ。

編集後記

●今は、飽食の時代と言われますが、みな様です。特集で取り上げた、各地の郷土の味の方が豊かで、これぞスローフード。味を伝え、資源再生に向けた人々の心意気も清々しい。

●自然災害やテロなど、暗い話題が絶えないインドネシア。しかし、インドネシアの人々は逆境なんのその、強さと明るさを持って暮らしています。現地にはないといわれない、平井さんの痛快なレポートでした。

●流域の川沿いにある河川広報施設や、ダム管理所には、石狩川を楽しく学ぶ情報がいっぱい。スタンプラリーに参加して、石狩川と地域の歴史を感じてください。

●今号も、みなさんのご協力のもと発行する事ができました。多忙の中、原稿を執筆くださった平井康幸さん、取材に成りてくださった柳井清治さん、すべての方に感謝申し上げます。

